



# 楓の森アップデート2



合志市立合志楓の森小学校  
学校だより 第9号  
令和6年9月24日(火)  
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓「志高く 道を拓く」

○学校教育目標「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

## 小中一貫教育による情報モラル講演会(小木曾 健先生の講演より)

先週9月17日(火)3・4校時、ZOOM オンラインで、情報モラル講演会を行いました。講師の先生は、国際大学GLOCOM客員研究員的小木曾健先生です。小学5年～中学3年生までを対象に行いました。

子供たちは、Instagram、LINE、TikTok、X等様々なSNSを使っています。

SNSの中で、つぶやいたり、画像や動画を貼ったりしている行為は、直接対面で行っていないことから、相手をあまり意識しないでやっているような感覚があるのではないのでしょうか。

実は、一瞬で多数の人に見られているのです。それは、「渋谷のスクランブル交差点で行っている行為と同じことである」という先生の言葉が印象的でした。「渋谷のスクランブル交差点でボードをもって立っていることを想像してください。そのボードに書いた言葉に責任が持てるのであれば炎上しません。」と…。「日常とネットは同じ、日常生活でやっていいことは、ネットでもOK、日常生活でやらないことはネットでもやらない。



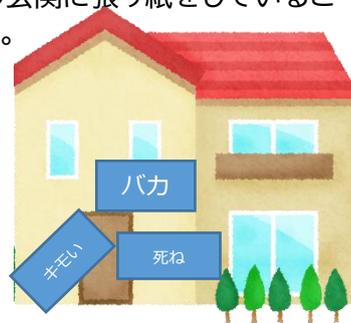
さらに、ふざけてやったことが取り返しのつかないことになる事例として、「2013年7月のローソン(高知市)での冷蔵ケース内で寝転が写真をFacebookに投稿し炎上した事件」のローソンの対応について述べられました。ローソンの対応はすばやく、事実確認をした上で冷蔵ケースとアイスクリームは撤去し、(1)契約条項に基づき同店とのフランチャイズ契約を解約、(2)ケースに

いた従業員を解雇させ、ほかの従業員への再教育、(3)15日午後5時からの同店の休業——を決めたということです。冗談のつもりでやったことが店をつぶしてしまう行為につながってしまったのです。この事件は、10年以上前の事件ですが、この事件後も「コンビニおでんつつん事件、スシロー醤油さし事件」等、数々の「SNS炎上事件」が繰り返されました。

さらに、顔はばれない、家も特定されないと思っていてもそれが調べようと思えばすぐにわかってしまうと……。ですから、家の玄関に張り紙をしていることと同じことであると…。

最後に、質問コーナーがあり、質問した児童・生徒に丁寧に回答していただきました。

本校の児童・生徒は、小木曾先生のお話を聞いて、正しくSNSを使うためには、「日常生活でやらないことは、ネットの世界でもやらない」ということを肝に銘じたようです。



## 民生委員・児童委員の皆様、いつも見守りいただきありがとうございます

9月20日(金)、4年生の総合的な学習時間で民生委員・児童委員の皆様をお招きしました。子どもたちは、「民生委員・児童委員の皆さんはどのような活動をしていますか」、「報酬がないのになぜするのですか」などと質問し、それに対して、子供たちの見守りや地域住民のための様々な活動についてお話されました。「報酬がなくても地域の人から感謝されたり、子どもたちが「おはようございます」と元気にあいさつしてくれたりする…それが励みになる」と言われ、子どもたちも笑顔でお話を聞いていました。



楓の森小 HP

学校行事や子どもたちの学習の様子につきましては毎日ホームページを更新していますので、ご覧ください  
<https://es.higo.ed.jp/kaedenomori/>

